

例言

- 1 本書は雨水対策事業鍛冶町雨水バイパス管築造工事（第2工区）に伴う事前事業として発掘調査を実施した、池南遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
- 2 遺跡名称等 池南遺跡
- 3 遺跡の所在地 高崎市吉井町池字南1500-2、1501-9
- 4 発掘調査から報告書刊行にいたる業務は、高崎市下水道局整備課の委託を受け、高崎市教育委員会が実施した。
- 5 調査主体者 高崎市教育委員会教育部 文化財保護課 埋蔵文化財担当
- 6 調査期間と整理期間
発掘期間 平成27年7月20日～平成27年9月29日
整理期間 平成27年8月1日～平成29年3月31日
- 7 発掘調査体制
高崎市教育委員会事務局
教育長 飯野眞幸
教育部長 上原正男
文化財保護課課長 若狭徹
埋蔵文化財担当係長 角田真也
埋蔵文化財庶務担当 針井修（主査） 金井英一（主査 [平成28年度]） 加藤志津代（主査）
埋蔵文化財調査担当 滝沢匡（主査） 田村孝（行政嘱託員 [文化財専門]）
埋蔵文化財整理担当 滝沢匡 小根澤雪絵（主任学芸員）
飯塚光生（行政嘱託員 [文化財専門]）
- 8 本書の編集・執筆は飯塚が行った。
- 9 委託業務 調査・整理作業で実施した委託業務は下記の通り。
 - ・遺構平面写真測量・遺構断面写真測量を株式会社シン技術コンサルに委託した。
 - ・遺構の空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 10 遺構写真の撮影は、滝沢・田村が行った。
- 11 遺構の断面実測および遺物出土図は、担当者の指示のもと作業員が実施した。
- 12 出土遺物の写真撮影・観察表作成は、飯塚が行った。
- 13 調査の記録類・出土品について
調査で得られた各種原図や写真・出土品は高崎市教育委員会が管理し、足門文化財事務所で保管している。

凡例

- 1 挿图中の方位は、座標北を示す。座標は世界測地系を用いた。
- 2 遺構名称や番号は、原則発掘調査時に付したものを使用した。
- 3 遺構略号は、土坑 (SK)・溝 (SD)・不明遺構 (SX) 等を用い、出土品の注記もこれと同様に行った。
- 4 遺構図については、挿图中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。
遺構平面図・断面図 1/60 溝跡断面図 1/80
遺構全体図 1/100
- 5 出土遺物については、各挿图中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。
土器・陶磁器類 1/3・1/4 銭貨 1/1 大型石製品 1/4
- 6 火山噴出物にかかわる表記・略号は下記のとおり。
AS-A (浅間 A 軽石: 1783 [天明 3] 年) AS-B (浅間 B 軽石: 1108 [嘉承 3・天仁元年])
- 7 遺物観察表の法量中にある () は、復元による推定値を示す。

目次

序文 例言 凡例 目次

第 1 章 発掘調査と遺跡の概要	1 頁
第 1 節 発掘調査にいたる経緯	1 頁
第 2 節 遺跡の立地と環境	1 頁
第 3 節 周辺の遺跡と歴史的環境	1 頁
第 4 節 調査の方法	4 頁
第 5 節 基本層序	4 頁
第 6 節 遺跡の概要	5 頁
第 7 節 遺構と遺物	9 頁
(1) 土坑	9 頁
(2) 溝跡	12 頁
(3) サブトレンチ・遺構外出土遺物	21 頁
第 2 章 成果と問題点	23 頁
第 1 節 縄文時代	23 頁
第 2 節 奈良・平安時代	23 頁
第 3 節 中世	23 頁
第 4 節 近世	23 頁
第 5 節 上池館掘跡について	23 頁
写真図版・抄録・奥付	

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 発掘調査にいたる経緯

高崎市水道局（以下「水道局」）では、旧吉井町市内の雨水対策事業の一環として、平成26年度から平成28年までの3カ年で吉井澱治町排水区雨水バイパス管工事を行う計画を立てた。平成27年度は、新設道路内への雨水幹線を計画した。平成27年1月、水道局と吉井支所建設課と工事について協議した結果、高崎市教育委員会文化財保護課（以下「文化財保護課」）へ工事予定地の埋蔵文化財について照会があった。文化財保護課では上池館周辺に立地し、周知の遺跡に登録される場所、その保護措置が必要であると回答した。その後の協議では、確認調査を実施し遺構のあり方を把握した上で、遺跡の取り扱いについて再協議することとなった。水道局から試掘確認調査依頼があり、平成27年3月10日に、高崎市教育委員会が調査を行い、上池館に続く堀跡等を検出した。これを受けて、水道局が文化財保護法第94条第1項に基づく届け出を行い、高崎市教育委員会では、平成27年7月1日より調査に着手した。調査は排土置場を確保するため調査区を東西3区画（A～C）に分け、はじめに調査区東側A区の調査を行い、8月18日からB区・C区の調査を行った。9月29日に調査を終了した。現地調査終了後は、平成28年3月31日まで基礎整理作業を行った。

第2節 遺跡の立地と環境

旧吉井町の地形は、北側を安中市・旧高崎市に接し、東側から南側にかけて藤岡市と接し、西側は富岡市・甘楽町に隣接している。旧町域の中心を東西に鑛川が蛇行しながら緩やかに流れ、倉賀野で烏川と合流している。鑛川両岸には、河岸段丘が形成されている。烏川右岸は、多胡地区・入野地区の山地・丘陵があり、左岸の岩平地区・馬庭地区には富岡丘陵がある。また、多くの平坦部が烏川南側にある。

池南遺跡は旧吉井町域、鑛川右岸に位置している。鑛川は荒船山麓に源を発する西牧川・南牧川が小河口と合流しながら河川を形成している。本遺跡地は甲田川・大沢川と鑛川の合流地点から900m程下った場所にあり、鑛川右岸台地上に立地する。西側は烏川による浸食が進み、高低差約8～10mの崖になっている。

第3節 周辺の遺跡と歴史的環境

旧石器時代 折茂Ⅲ遺跡、多比良追部野遺跡、竹沼遺跡、緑桙上郷遺跡、神保富士塚遺跡、多胡蛇黒遺跡、矢田遺跡などで確認されている。

縄文時代 縄文時代の遺跡は鑛川両岸に分布し、遺跡数も増加する。草創期・早期の遺跡には、入野遺跡（16）などがある。前期の遺跡は、神保富士塚遺跡（22）、神保植松遺跡（23）、入野遺跡（16）があり、鑛川右岸上位段丘面から中位段丘面にかけて広がりが見られる。中期の遺跡は上位段丘面から下位段丘面にまで広がる。神保植松遺跡（23）、川内遺跡（18）、椿谷戸遺跡（17）、矢田遺跡（27）がある。後期の遺跡は上位から下位段丘面全体に分布しているが、中期に較べて減少傾向にある。羽田倉Ⅱ遺跡（21）、多胡蛇黒遺跡（25）、椿谷戸遺跡（17）、砂井戸遺跡（7）がある。晩期になると遺跡数は激減し、塚原遺跡、緑桙上郷遺跡（41）がある。

弥生時代 弥生時代の遺跡は、鑛川右岸上・中位段丘面に立地している。長根・神保・多胡段丘面に密に分布する。中期の遺跡は上位から中位段丘面のなだらかな斜面に分布する。羽田倉遺跡、神保植松遺跡（23）、神保富士塚遺跡（22）があり、再葬墓が確認されている。後期にはいと、遺跡数が増加し、集落の定住が進む。羽田倉遺跡、神保植松遺跡（23）、川内遺跡（18）、多比良追部野遺跡（28）、入野遺跡（16）がある。

古墳時代 前期の集落は、鑛川中位段丘から上位段丘にかけて分布が見られる。長根安坪遺跡、折茂東遺跡、神保植松遺跡（23）、多比良追部野遺跡（28）、入野遺跡（16）、竹沼遺跡（38）がある。中期の遺跡は、

折茂東遺跡、緑塗上郷遺跡(41)がある。後期の集落はほぼ全域で見られ、遺跡数も急激に増加する。

初期古墳については、鍋川流域では藤岡市の茶臼山古墳・茶臼山西古墳があげられる。4世紀末葉になると、片山1号墳など旧吉井町地域でも古墳の築造が開始され、5世紀前半に悪行寺裏古墳が造られ、6世紀になると、地域ごとに古墳群が形成され多胡葉師塚古墳(34)などが造られる。鮎川下流域では、5世紀前半の白石稲荷古墳、6世紀前半の七興山古墳(47)などの前方後円墳を中心に多くの古墳が造られる。6世紀後半に葉師塚古墳、皇子塚古墳(46)があり、終末期古墳として、喜藏塚古墳(44)、鏡塚古墳(43)がある。烏川流域では、佐野古墳群や倉賀野古墳群などが造られる。5世紀には浅間山古墳(62)、大鶴巻古墳(61)など大型古墳を中心に古墳が造られ、後期まで古墳が造られる。後期の古墳に、一本杉古墳、漆山古墳(65)がある。

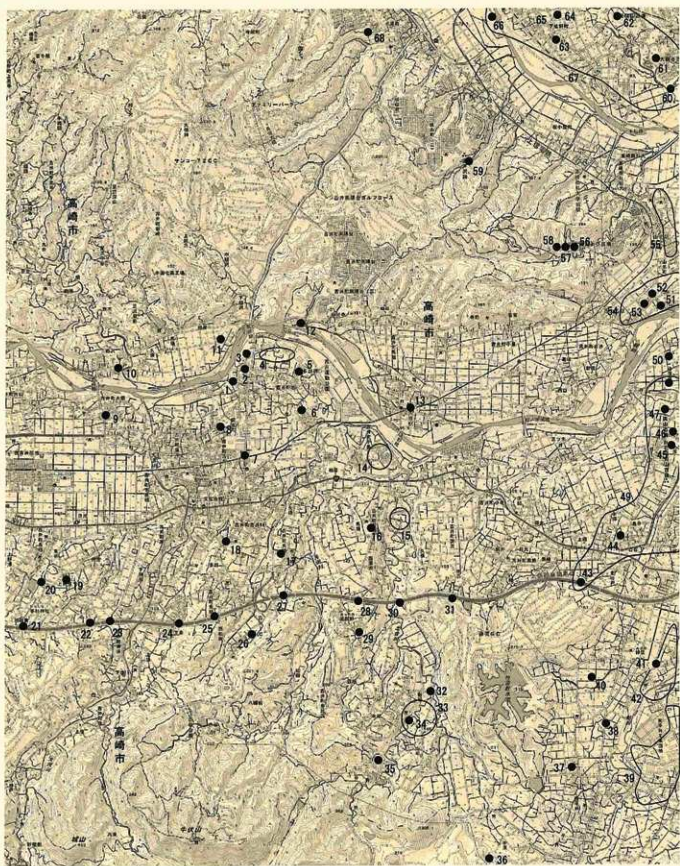
奈良・平安時代 この時期の遺跡は、台地上や微高地などに分布し、矢田遺跡(27)、多比良追辺野遺跡(28)など大規模集落が造られる。水田遺構として、羽田倉遺跡、多比良追辺野遺跡(28)から浅間B軽石下(1108年)の水田跡が確認されている。また、山間部では多くの窯が造られ、須恵器や瓦の生産が行われていた。下五反田遺跡(32)、滝の前遺跡(35)、金山瓦窯跡(36)などの遺跡がある。郡衙遺跡では、多胡郡衙正倉跡(6)から正倉跡が確認された。寺院跡では、馬庭東遺跡(13)があり、雑木味遺跡(8)などから瓦の出土が確認されている。

中世 村上源氏の流れをくむ奥平氏が奥平城を築き、上野国甘楽郡司を務めた。氏行以降も、奥平氏が甘楽郡司を代々勤めている。六代奥平定政のとき新田義貞に従い、笠懸野に挙兵したとされる(註1)。

註1 吉井町誌編さん委員会 1974『吉井町誌』第2部歴史篇 第1節1 源氏と上野国

第1表 周辺遺跡一覧表

1	池所遺跡	中・近世	21	羽田倉遺跡	縄～泉・平	41	緑塗上郷遺跡	旧・縄・古・泉・平	61	大鶴巻古墳	古
2	竹原遺跡	泉・平	22	神倉富士塚遺跡	縄～泉・平	42	緑塗古墳群	古	62	浅間山古墳	古
3	蟹ヶ浜遺跡	泉・平	23	神倉林松遺跡	縄～泉・平	43	鏡塚古墳	古	63	下佐野遺跡	古
4	下池古墳群	古	24	神倉下輪遺跡	古・泉・平	44	喜藏塚古墳	古	64	藤王塚古墳	古
5	多胡野	泉・平	25	多胡輪麻遺跡	旧・古・泉・平	45	平井地区1号墳	古	65	漆山古墳	古
6	多胡郡衙正倉跡	泉・平	26	藤田遺跡	古・泉・平	46	皇子塚古墳	古	66	沼橋遺跡	古・泉・平・中
7	砂井戸遺跡	縄・古・泉・平	27	矢田遺跡	旧・縄・古・泉・平	47	七興山古墳	古	67	鏡塚古墳群	古
8	雑木味遺跡	泉・平	28	多比良追辺野遺跡	旧～泉・平	48	伊勢塚古墳	古	68	探塚古墳	古
9	道六神遺跡	泉・平	29	東沢遺跡	古・泉・平	49	白石宮遺跡	古			
10	東沢上遺跡	縄・泉・平	30	多比良平野遺跡	泉・平	50	上清倉遺跡	古			旧 旧石器時代
11	高岡遺跡	縄・古・泉・平	31	黒熊中西遺跡	縄・古・泉・平	51	河原1号墳	古			縄 縄文時代
12	川俣遺跡	泉・平	32	下五反田遺跡	泉・平 遺跡	52	山名伊勢塚古墳	古			弥 弥生時代
13	馬庭東遺跡	縄・泉・平	33	中ノ原古墳群	古	53	山名原口1遺跡1号墳	古			古 古墳時代
14	塚原古墳群	古	34	多胡麻脚塚古墳	古	54	山名古墳群	古			泉・平 奈良・平安時代
15	祝神古墳群	古	35	滝の前遺跡	泉・平 遺跡	55	山名土倉古墳群	古			中 中世
16	入野遺跡	縄～泉・平	36	金山瓦窯跡	泉・平 遺跡	56	山ノ上遺跡	古			
17	榎谷遺跡	縄・古・泉・平	37	高岡遺跡	縄・古・泉・平	57	いせい心遺跡	古			
18	川内遺跡	縄～泉・平	38	川俣遺跡	泉・平	58	山ノ上西古墳	古			
19	折茂川遺跡	縄～泉・平	39	東平平古墳群	古	59	倉井沢跡	古			
20	折茂川遺跡	旧・縄・古・泉・平	40	大工ヶ谷遺跡		60	倉賀野万福寺遺跡	古			



第1図 周辺遺跡地図

第4節 調査の方法

(1) 試掘確認調査 調査前の状況は、平成27年の試掘(H26-149)状況で、既ねの遺跡相や密度を想定し調査期間・経費を算出した。また、調査区内に上池館堀が存在する事から、事前に西郭堀の範囲を確認するため試掘トレンチを設定し、確認調査を行った。

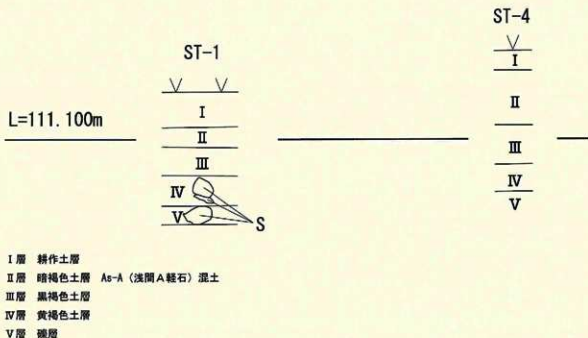
(2) 調査区の設定 設計平面図を基に調査担当者が現地を測りだし、調査区を設定した。調査区周りにバリエード・表示等を設置し、安全対策を行った。

(3) 調査の方法 発掘調査に伴う排土置き場確保のため調査区を東西3区画にわけ、A区→B区→C区の順に調査を行った。表土掘削は重機を使用し、遺構確認面まで表土掘削を行った。その後、人力による遺構確認作業を経て、切り合い関係を確認した上で各遺構の精査を実施した。精査は、地層断面観察・遺物出土状態から完掘まで段階的に各種記録を作成した。写真は、35mmのモノクロとリバーサルフィルム・デジタルカメラを使用し調査担当者が撮影を行った。調査終了後は、重機を使用し埋め戻した。

(4) 整理作業の方法 平成27年度調査終了後、出土遺物の洗浄・注記・接合・復元作業を順次実施した。遺構図・エレベーション図は平成27年度池南遺跡写真測量データから平面図・エレベーション図を作成した。遺物図はデジタルトレースし、遺物写真はデジタルカメラによる撮影を行い、編集作業を行った。

第5節 基本層序

調査区は、畑や通路として利用されていた。地表約10～18cmは、耕作で土壌が耕されている状態であった(I層)。10～30cmの厚みで暗褐色土層(II層)が堆積している。II層中から、火山噴出物である浅間A軽石(As-A)の二次堆積が確認できた。III層は16～20cmの厚みで黒褐色土が堆積している。IV層から、鏡川の河岸段丘形成時の礫が確認でき、V層になると礫の混入割合が増加する。浅間A軽石(As-A)以外の火山噴出物については、確認できなかった。表土掘削は、III層上面で行った。



第2図 基本層序図

第6節 遺跡の概要

今回の発掘調査では、土坑跡8基、溝跡6条が確認された。1号土坑、2号土坑は古代に該当すると考えられる。また、溝跡覆土中から古代の須恵器羽釜片が出土している。8号土坑から内耳鍋、礫白が出土している。1・2号溝から内耳鍋、陶器坑が出土している。出土遺物の特徴から、中世から近世にかけて遺跡が営まれたと考えられる。その他、覆土中に諸磯C式、黒浜式の縄文土器片が出土している。

今回確認された、1・2号溝は上池館跡の南側に位置し、上池館に伴う堀跡と考えられる。2号溝覆土上層から浅間A軽石(As-A)の地礫が確認された。このことから、近世(1783年)以降も利用されていた事が確認できる。その他の溝跡も走行方向が正方位に乗ることから、上池館もしくは、近世以降の陣屋跡に伴う遺構と考えられる。

(1) 旧石器時代

旧石器期の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

(2) 縄文時代

縄文期の遺構の検出はなかった。黒浜式土器片、諸磯式土器片、石棒、擦り石が出土している。

(3) 弥生・古墳時代

弥生・古墳時代の遺構・遺物の出土はなかった。

(4) 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、1・2号土坑を検出している。

(5) 中世

中世の遺構は、1・2号溝を確認している。遺物には、内耳鍋、鉢などが出土している。

(6) 近世

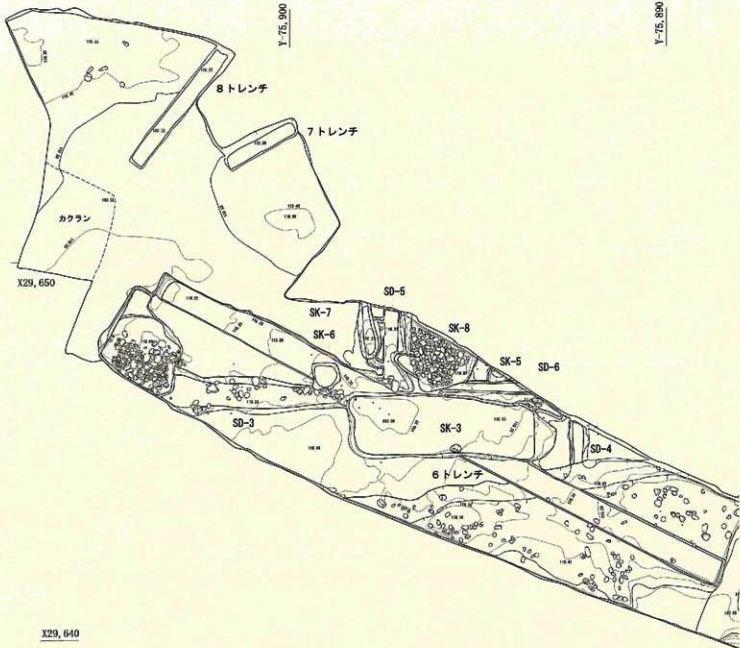
近世の遺構は、3～6号溝、3・5号土坑を確認している。陶器皿や灯明皿・内耳鍋が出土している。



第3図 発掘調査位置図

Y-75, 900

Y-75, 890



X29, 640